

2013年9月、初秋の風景。

ヒューストンで覚えたランニングの醍醐味。これを我が家の周りでも試してみたくなりました。今までお花見のために年に一度くらい、散歩する程度だった自然公園の中をジョギングすることにしました。よく見てみると、同じように走っている男性・女性・若者・子供。。。。

アップダウンもあり、適度な負荷になります。ヒューストンでは川岸の平坦な道をひたすら遠くへ、という感じでしたが、山あい、木の根っこ、でこぼこ、砂利道、上り坂、下り坂、などなど変化に富むため意外と色々な筋肉を使います。腕をしっかり振らないと、勢いもつかない。上半身も良く使います。

丘の頂に上ったとき、ふと目にした富士山は、秋の気配の向こうにやや霞み、そっと佇んでいました。ここを駆け下り、しばらく走ると、小学生用の体験農園というか、田んぼのあぜ道に至ります。子供たちが一所懸命植えた稲はすでに刈り取られて、稲田の垣根に掛けられた後、脱穀・収穫されたのでしょうか。黄金色の稲穂が風にそよいでいた名残を惜しむのみですが、日本の原風景。ヒューストンではお目にかかれない、ほっとするひと時でした。



やや秋は深まり、11月の空の下。富士山続きで、関西方面へ出張の折、新幹線の窓から捕らえたひとコマ。さらに続けてシンポジウムのため11月下旬に訪れた山中湖のほitori。間近で見た富士山の雄姿です。



屋外の風景からがらっと変わり、なにやら長屋の雑多な眺め。知る人ぞ知る、秋葉原駅の軒下はラジオストアです。11月末日に区画の半分のお店が閉まる、というので、訪ねてゆきました。思い起こせば中学生の頃から、ずっと慣れ親しんだお店たちです。お世話になりました。我が道をエレクトロニクスと通信の道に引っ張

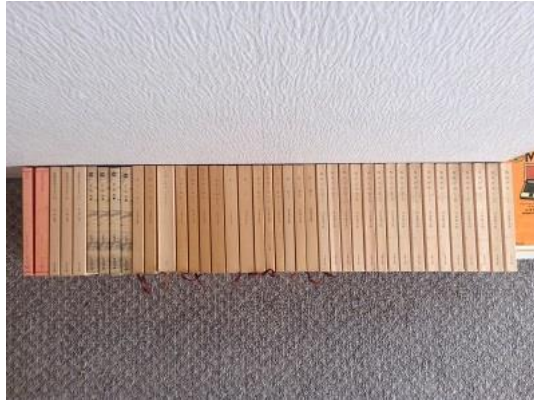
ってくれたのもこのお店たち。この頃の日本は、元気があったよなあ。。。。



ところで、長年元気に泳ぎ回っていた金魚君がとうとう大往生しました。14年ほど前の夏祭りで、お嬢の戦利品として我が家にやってまいりました。以来、ベランダに据えた水槽で仲間数尾と暮らし、最後の一尾になってからしばらく経ちました。最近はずすがに動きが緩慢になっていました。いまごろ天国で仲間と再会し、元気に泳ぎまわっていることでしょう。



さて2013年の秋、とおるさん家は思い切って住み替えプロジェクトに乗り出しました。マンションの立地は大好き。でももうちょっと広めの部屋が欲しい。とりわけ、オーディオ部屋とリビングの分離は、オク様の要望でもあり、とおるさんの悲願でもありました。と、いうわけである朝入った、同じマンションの4LDKを売りに出したチラシ広告に、とおるさんの目は釘付け。恐る恐る伺いを立てたオク様にも、意外なことに異論はなく、即決してしまいました（Yフオクではあるまいに）。中古新居の購入手続きが先行し、現住居の売却先を探すのが二の次になりました。我が家をご購入いただくお客様を毎週末お迎えするにあたり、なかなか手のつかなかった不用品の整理と部屋の片付けを進めました。これってなかなか良いきっかけです。オク様も、近頃流行の「整理本」に夢中。手始めに、とおるさんは「蔵書」の処分を行いました。



手始めに、もう何十回と読んだ、司馬遼太郎と手塚治虫のシリーズに Good Bye!



ちなみに、ヒューストンから帰還したとおるさん家のオーディオクルードもを現住居のリビングに詰め込んだところが上の写真です。アチラで購入した2インチスロートのホーンは、一つ目小僧(ジムテックウーハー)の上部に設置できず、カーペット床に直置きとなっています。やむを得ず仮に採った処置ですが、これが意外と良い音質で、奥行き感もばっちりです。普段、座イスで聴くのですが、耳の高さとちょうどマッチします。ホーンを導入しての感想ですが、小音量でも音場が狭まらず、箱庭的リスニングルームにはむしろ適しているのでは、と思います。

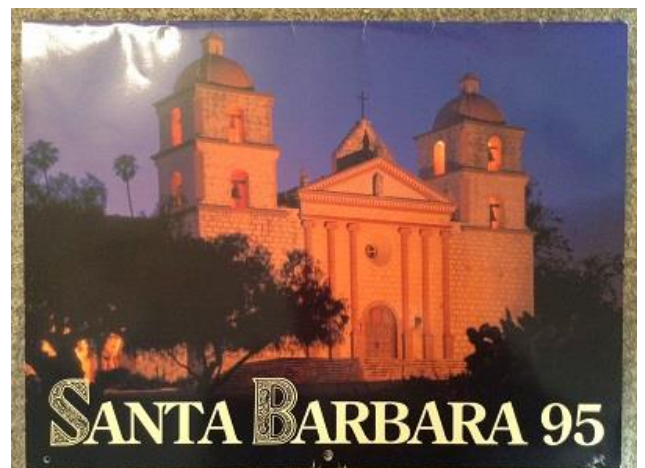
そうこうしているうちに、引越しの日程が近づいてまいりました。記念に、住み慣れた部屋から見る景色を写真に収めておきました(次ページ写真)。富士山が遠くに見えるのが、お気に入りでした。今度移る先は、同じ棟内の別な列で、少し上の階ですが、果たして富士山はどのように見えるのでしょうか・・・



引越しは2月上旬と決まりました。2014年のお正月は今までの部屋で迎えました。



正月休みが明けてしばらくしてから、引越しの準備に取り掛かり始めました。段ボール箱と梱包材一式が届き、荷物をつめ始めます。わずか100mほどの距離ですが、小物から何から箱詰めしないと運ばせぬ。この際、古い思い出グッズも写真に撮っておさらばすることに。悪戦苦闘にもかかわらず、捨てる判断のつかないものがたんまり残り、結局最後は片っ端から詰め込んで運ぶことになりました。本・写真・オク様のポーセライン作品・お嬢とオク様の衣類・・・などなど。



1月頭には中国出張が間にはさまり、引越し準備と相俟って、あわただしい年明けになりました。北京上空を離れるときに飛行機から見た風景（下記左）。遠く西へ続く山脈が見え、その向こうにはきっとモンゴルやトルコに至る平原が続くのでしょう。

さて、引越しの方は例によってオーディオクルードも自力で新しい部屋へ、前もって運んでおきました（下記真ん中）。当日はそれ以外の家具類や荷物を業者さんに任せました。ところが、折からの豪雪。来てもらうはずのトラックが坂道でエンコし、皆さんリレーで運搬作業にあたりました。あれだけの雪にもかかわらず、濡れたり汚れたりという不具合がひとつもなかったのは流石プロ。でも、その日のうちには終わらず、後日作業を追加せねばなりませんでした。下記右の写真は、ようやく雪が止んで落ち着いた朝の景色です。



無事引越しの後、新しい部屋から望む富士山。ちょっと左の裾が隠れますがほぼ全容が拝めます。



新しい住まいは、少し広くなったリビングが東南の角部屋に位置し、大変明るくなりました。リビングのすぐ横が仕切られた六畳和室ですが、ここをリスニングルームとし、機器類・レコード・CDの置き場所としました。襖を閉めてしまえばガラクタどもを目隠しすることができ、オク様のご機嫌も美しく結構でございます。



これを機会に、構想中であつた電源強化に取り組みました。200V 屋内配線とコンセント（エアコン用）を流用し、200V→100V・3kVAの絶縁降圧トランスを接続。ノイズの低減と、配線抵抗の削減を目論見ました。

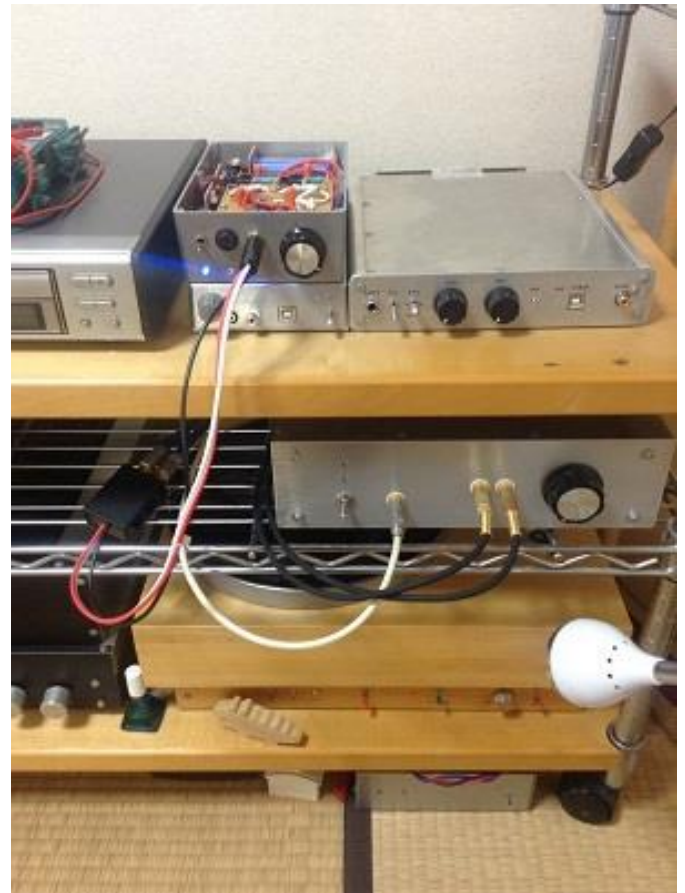
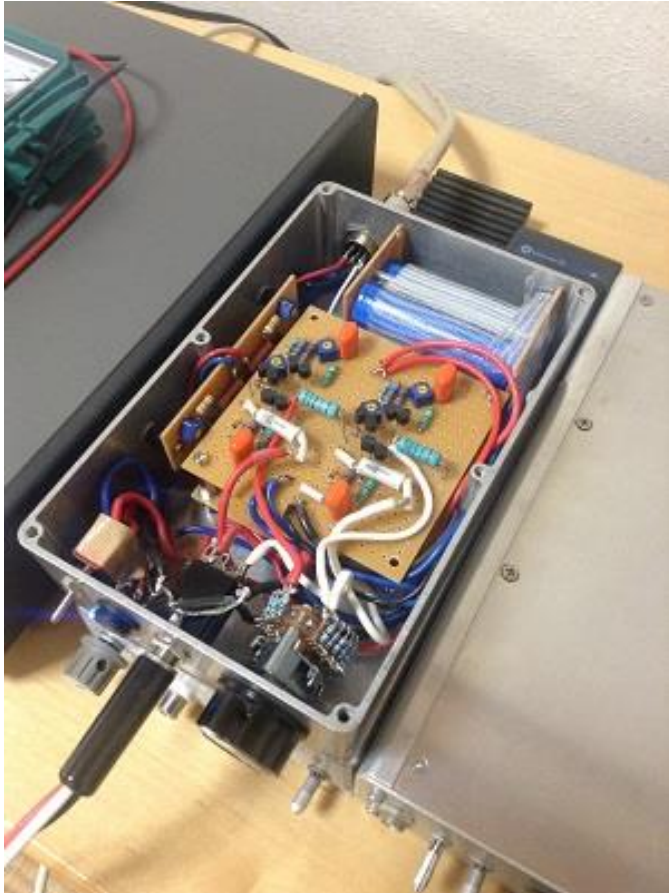
失敗談ですが、スイッチオン・励磁時の突入電流が大きく、配電盤の元ブレーカーが頻繁に落ちます。対策として、たまたま並列に配した2個のスイッチを使い、次のような仕掛けをしました。一つ目のスイッチを閉じると、56オーム10ワットのセメント抵抗4本並列（すなわち14オーム）を通して1次側巻き線に給電。二つ目のスイッチを閉じるとその抵抗がショートされ、通常の給電状態になります。これで問題解消。



結果、まったく気分的なものですが、静寂感・奥行き・低音のフトコロの深さ、など、2万円強の投資効果はあつたようです。ただし、このトランス、励磁にともなう振動音が若干大きい。部屋の隅に配置して、さらに何らかのカバーで遮音する必要があります。

次なるプロジェクトとして、電流伝送イコライザアンプのグレードアップを図りました。もう一枚基板を重ねて、カレントラインアンプの増設です。

グラドのカートリッジの音質に満足していたのですが、なんとなく高域の暴れと、ひずみ音が付きまとうような感じが目立ち始め、気になっておりました。ラインアンプを付加することで状況が変わらないか、色々と試みました。調整用のボリュームを変えたり、イコライザ段との接続抵抗を取捨選択したり、と試行錯誤を繰り返しましたが、どうも改善効果がない。



そのうち、フト思い当たり、アームのトラッキングエラーを再チェックしてみることにしました。

普段、DC ターンテーブルをラックの無理な位置に押し込んであるため、ついついターンテーブルの基本的なチューニングを怠っておりました。サエクのアームの説明書を見ると最適オーバーハングは 5mm、と記載してありますが、現状は 10mm 強くらいに見えます。レコードの内周部にアームを置いてみると、溝の接線に対しカートリッジの中心線が傾いて見えます。あ、これだ、と思いましたが、あいにくとグラド君はエポキシ接着剤でシェルに「はりつけ」の刑にされていたのでした。調整のしようがない。アームベースごと後方に移動、という手がありますが、これではさらに調整がややこしくなります。

安易な解法ですが、DL-103 を新規購入し、別なカートリッジシェルと、2SK43 によるサテライトアンプを組み合わせることにしました。DL-103 の針先が、今までより 5mm ほど後退（シェル根元に近づけて）する位置に、カートリッジ本体を取り付けました。残念ですがグラド君にはしばし休養いただきませう。

→ 結果、ひずみ音は無くなり、フルコーラス・強奏部でも暴れ感が薄れ、ぐっと落ち着いた音質に変わりました。K 先生の電流伝送式イコライザの発表以来、その追試例は同好諸氏間でたくさん聞かれますが、DL-103 以外のカートリッジと組み合わせた事例は多くありません。とおるさんのグラド+2SK246 の組み合わせは意外に力強い音質で期待が持てましたが、今回トラッキングエラーの影響が分離できず、真価を見極めるに至りませんでした。いずれまた機会を見つけてチャレンジしてみましよう。

(以上、2014 年 5 月記す)